

パワーコードの弾き方

パワーコードは、コードのルート音と5度の音で出来ている。弦2本/3本で弾かれる事が多いです。

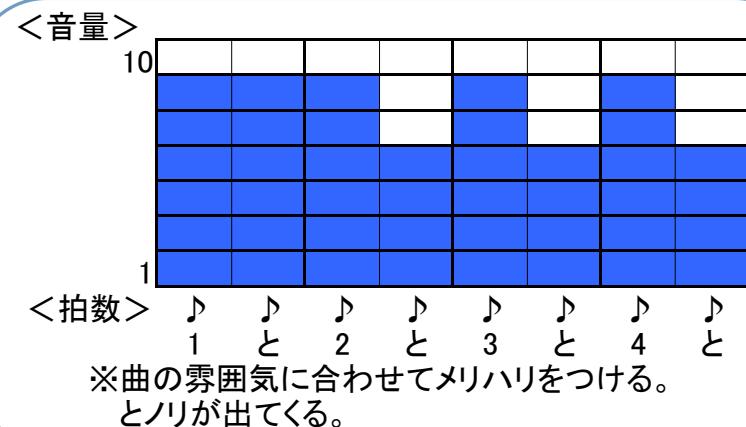
コードの3rd音がない為、メジャー/マイナーコードを問わずに使用されます。

主に、曲にビート(ノリ)を出す事が出来る為、ロック/ポップス等でブリッジミュートも交えながら刻む様に弾かれる事が多いです。

<パワーコード>

Exercise. 1

The musical score consists of two staves. The top staff is for the guitar neck, and the bottom staff is for the tablature. The score is divided into five measures labeled A, E, G, F, and G. Each measure contains a power chord. In measures A, E, and G, there is a horizontal line with the word "mute." underneath it, indicating a muting technique. The tablature below shows the fingerings for each chord: A (1-2-3), E (1-2-3), G (1-2-3), F (1-2-3), and G (1-2-3).



・1音、1音に強弱を付けると、ノリが出てくる。どこが強く弾くか、弱く弾くかは曲のテンポ、雰囲気によって変わってくる。他の楽器なども聴いて気持ちよいタイミングを探る。

・通常、弦に対してピックフラットに合わせる事が多いが、わざとピックを弦に対して、斜めに当てて音色を変える事もある。

・パワーコードはその使われ方として主にビート感を出すときによく使われる。ビート感を無くさない様に素早くピッキングして和音を同時に鳴らす様にする